

## 麻薬密売とリンクするコロンビアの売春産業

### ～深刻化するトラフィッキングの問題～

2006年12月14日(木)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

#### ～要 旨～

南米のコロンビアは大きな「地下経済」を抱えており、地下経済がGDPに占める規模は2000年時点で39.1%に達する。

地下経済のなかでも、とくに大きなウエイトを占めるのがマリファナ、コカイン、ヘロインなどの麻薬の生産と密輸である。国際連合の統計では、2005年のコカイン生産量は640トンと世界最大で、そのシェアは世界生産の70.3%に及ぶ。コロンビア国内にはたくさんの麻薬密売組織が存在し、有名なゲリラ組織、FARC(コロンビア革命軍)、ELN(民族解放軍)などは麻薬密売を主要な収入源としている。

麻薬撲滅を推進する米国からの強い圧力もあって、コロンビア政府や警察当局は麻薬の摘発を強化しているが、貧しい農村部では麻薬の生産で生計が成り立っているところも多く、麻薬の撲滅は難航気味である。麻薬栽培からコーヒー栽培への切り替えも奨励されているが、外国ブランドとの競争が激しくなっているコーヒー栽培では、採算をとることが難しい。

コロンビアではセックス産業も発達しており、同産業が麻薬と並ぶ外貨獲得の重要な手段となっている。売春宿は首都ボゴタに集中する。近年では、生活苦から児童が路上売春をするケースが増えており、ボゴタの売春婦のうち7000人は18歳未満であるという報告もある。14歳未満の児童売春婦の数も増え続けている。親が子供に売春を強要するようなケースも少なくない。児童買春は総じて相場が安いため、外国人だけでなくコロンビア人も顧客になる。

コロンビアの売春産業の特徴として、麻薬の密輸と売春が密接不可分の関係にあるという点が挙げられる。売春婦が、麻薬の運び屋を兼ねていることが多い。

いわゆるトラフィッキング(人身売買)の問題も深刻化している。海外のブローカーと手を組んだコロンビアのあっせん組織によって、毎年多数のコロンビア女性が海外に売り飛ばされているという。典型的な人身売買のパターンは「いい仕事がある」などと声をかけられて、そのまま海外に連れ去られ、そこで売春をさせられるというものだ。

一部のコロンビア女性は人身売買によって、日本にも連れて来られている。2001年から2005年までの間に、日本で人身売買の被害に遭ったコロンビア人女性の数は累計58人に上る。人身売買の問題を重くみた日本は、2005年1月にコロンビア政府との間で相互に防止措置をとることで合意した。

### (GDPの4割が地下経済)

南米のコロンビアは大きな「地下経済」を抱えている。

F・シュナイダーらの推計によると、地下経済がGDPに占める規模は2000年時点で39.1%に達する。コロンビアの地下経済が膨らんだ最大の要因は、同国で長い年月にわたって内乱が続いた結果、その過程でたくさんの貧困層が生まれ、職のない貧しい人々が生活苦から地下経済の世界に入ってきたためと考えられる。

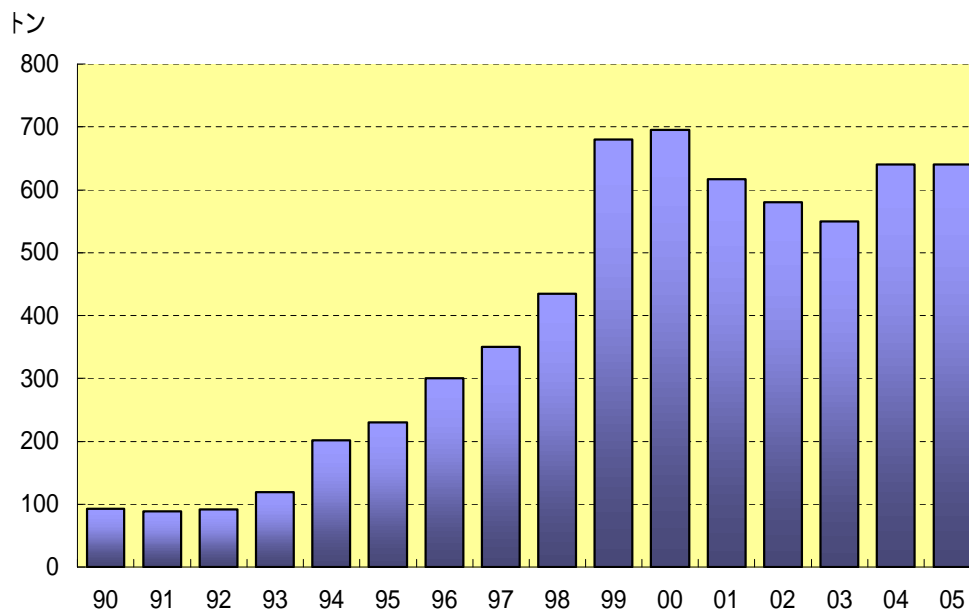
地下経済のなかでも、とくに大きなウエイトを占めるのがマリファナ、コカイン、ヘロインなどの麻薬の生産と密売である。国際連合の統計では、2005年における同国のコカイン生産量は640トンと世界最大で、そのシェアは世界生産の70.3%に及ぶ(図表)。

コロンビア国内にはたくさんの麻薬密売組織が存在し、有名なゲリラ組織、FARC(コロンビア革命軍)、ELN(民族解放軍)などは麻薬密売を主要な収入源としている。

麻薬は、外国人を対象としてコロンビア国内でも密売されているが、大半は、ドラッグ常用者が多く、地理的にも近接する米国に密輸されているといわれる。北米地域のコカイン常用者は2004～05年平均で645.9万人だ(15～64歳人口の2.3%)。

麻薬撲滅を推進する米国からの強い圧力もあって、コロンビア政府や警察当局は麻薬の摘発を強化しているが、貧しい農村部では麻薬の生産で生計が成り立っているところも多く、麻薬の撲滅は難航気味である。麻薬栽培からコーヒー栽培への切り替えも奨励されているが、外国ブランドとの競争が激しくなっているコーヒー栽培では、採算をとることが難しい。

図表 コロンビアにおけるコカイン生産量の推移



(出所) 国際連合資料より作成

### (深刻化するトラフィッキング)

コロンビアではセックス産業も発達しており、同産業が麻薬と並ぶ外貨獲得の重要な手段となっている。

売春宿は首都ボゴタに集中している。顧客の多くは外国人で、買春の相場は1時間あたり日本円にして1000円から4000円程度となっている。

近年では、生活苦から児童が路上売春をするケースが増えており、ボゴタの売春婦のうち7000人は18歳未満であるという報告もある。14歳未満の児童売春婦の数も増え続けている。親が子供に売春を強要するようなケースも少なくない。児童買春は総じて相場が安いいため、外国人だけでなくコロンビア人も顧客になる。

コロンビアの売春産業の特徴として、麻薬の密輸と売春が密接不可分の関係にあるという点が挙げられる。売春婦が、麻薬の運び屋を兼ねていることが多い。

いわゆるトラフィッキング(人身売買)の問題も深刻化している。海外のブローカーと手を組んだコロンビアのあっせん組織によって、毎年多数のコロンビア女性が海外に売り飛ばされているという。典型的な人身売買のパターンは「いい仕事がある」などと声をかけられて、そのまま海外に連れ去られ、そこで売春をさせられるというものだ。パスポートを取り上げられたり、巨額の債務を負わされるといったケースも多い。バットで殴られたり、数日間食事を与えられないなどの被害に遭う女性もいる。

一部のコロンビア女性は人身売買によって、日本にも連れて来られている。2001年から2005年までの間に、日本で人身売買の被害に遭ったコロンビア人女性の数は累計58人に上る。

人身売買の問題を重くみた日本は、2005年1月にコロンビア政府との間で相互に防止措置をとることで合意した。